

子ども用国産ワクチン

熊本の会社来年実用化へ

国産の新型コロナウイルスワクチンの開発に取り組むKMバイオロジクス(熊本市)は四日、生後六カ月から十八歳向けの不活化ワクチンの臨床試験(治験)を今後国内で行い、来年の実用化を目指す方針を明らかにした。長野県軽井沢町で開催された日本ワクチン学会で発表した。

子どもの接種については米ファイザーが五〜十一歳

への対象拡大を厚生労働省

に申請し、審議中。ただファイザーやモデルナのメッセンジャーRNAワクチン接種後には若い男性で心筋炎や心膜炎の発生が通常より高い頻度で報告され、厚生省は「重大な副反応」に位置付けることにした。

子どもへの影響ははっきり分かっていないが、KMバイオロジクスは、感染力や毒性をなくしたウイルス

を用いる従来型の不活化ワクチンには感染症予防の歴史があるので需要があると考えた。

学会には他の国内メーカーも参加。年度内のワクチン実用化を目指す塩野義製薬(大阪市)は開発中の組み換えタンパクワクチンの治験の初期段階で、感染した場合と同程度の量の抗体が確認できたと明かした。